

研究委託地域	研究テーマ
藤沢市	児童・生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実
茅ヶ崎市	「未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実」 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	「郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成」
葉山町	9年間を見通した「探究的な学び」の推進・深化 ～生活科・総合的な学習の時間を中心に～
寒川町	確かな学力を身につける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
綾瀬市	「9年間を見通した豊かな学びを目指して」 ～授業スタイル（振り返り）と家庭学習の充実の共通化を通して～
愛川町	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成 自立・協働 ～たくましく生きぬく力を持つ子～
清川村	幼・小・中の12年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善
二宮町	9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通じた、「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方（4年次）
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「児童・生徒を中心に考える授業づくり」 ～“学び”の質を高める授業改善～
松田町	「質の高い学びの創造」 ～自立・創造・共生の視点から～
山北町	「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができると人間力と社会力の育成」
真鶴町	「伝え合い・学び合いを通して育む確かな学びと豊かな心」

各地域・推進校の研究の概要を、令和6年度かながわ学びづくりシンポジウムで紹介しました。神奈川県ホームページにも掲載しています。 (かながわ 学びづくり推進地域で検索。)



令和7年度は、14 市町村(藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、綾瀬市、愛川町、清川村、秦野市、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町)を、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域としています。
また、令和7年度かながわ学びづくりシンポジウムは、令和8年1月に開催する予定です。

問合せ先:神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ
電話:045-210-8217(直通)

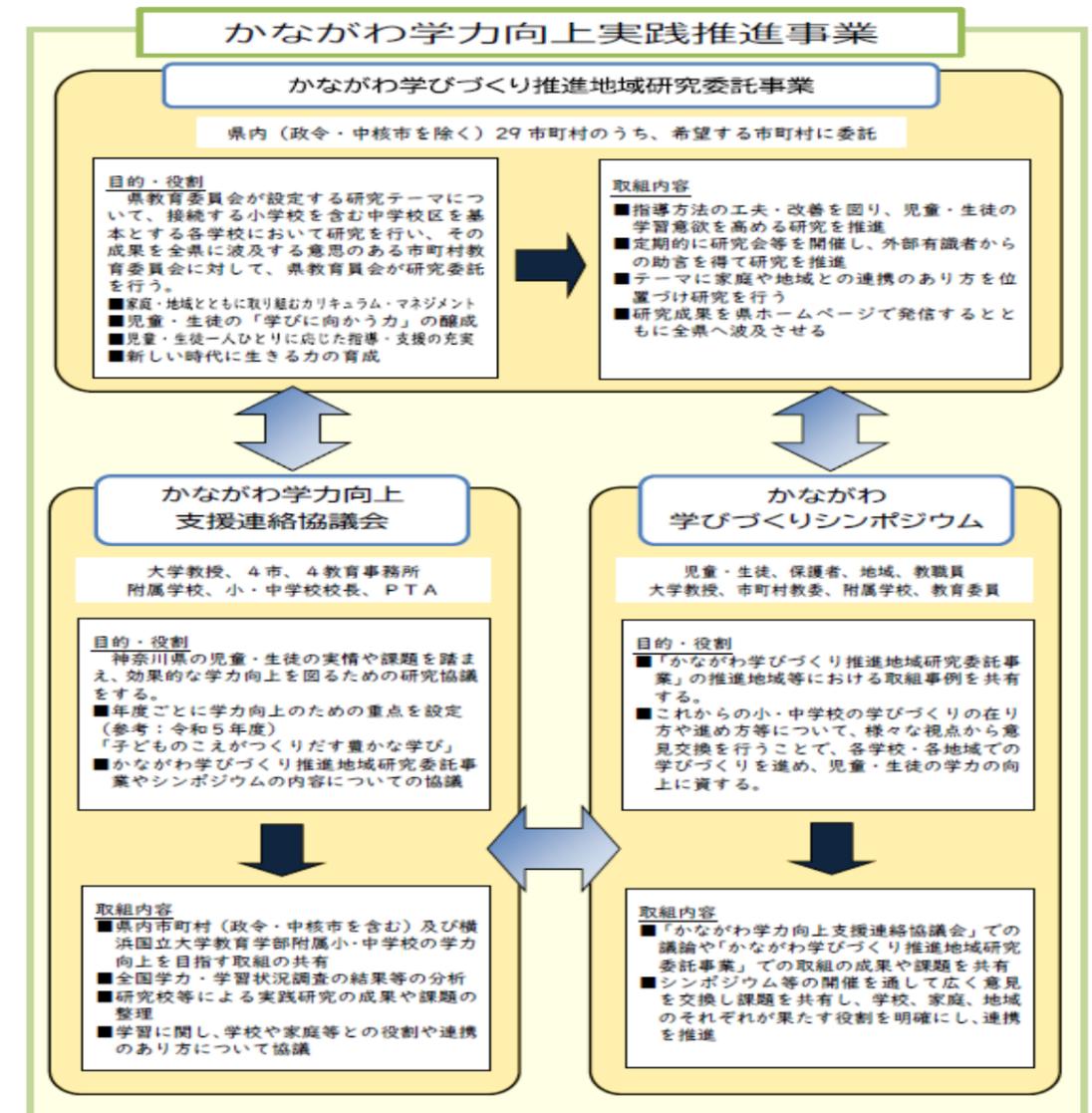


かながわの

学びづくり 2025 プラン

かながわ学力向上支援連絡協議会

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組（かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学びづくりシンポジウム）を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



令和6年度かながわ学びづくりシンポジウム 令和7年2月1日(土)開催



県教育委員会では、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

令和6年度は、昨年度に引き続き会場とオンラインのハイブリッド開催とし、「子どものこえがつくりだす 豊かな学び～わたしたちのこえが届くとき～」をテーマに、子ども・大人がそれぞれの立場で、「豊かな学び」や「かながわの学びづくり」そして「子どものこえ」について語り合いました。

★神奈川県ホームページも御覧ください★



「令和6年度かながわ学びづくりシンポジウム」の概要

基調講演 「子どものこえがつくりだす かながわの学び」ー子どものこえからはじまる学びへー

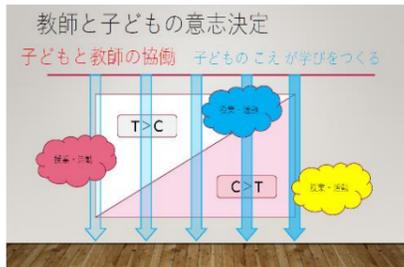
横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生

○神奈川県の学びづくりは、日々の学びを充実させていくことを大切にしている。授業の中で子ども同士の学び合う力を育成し、学びの質を向上させるために、教員自身が授業の改善を図っていくという方針の下、進められてきた。

○このシンポジウムは平成19年度から「かながわ学力向上シンポジウム」として始まり、「模索期」「探究期」と続く中で、学力の本質や、学力向上における組織の働きといったことについて議論が行われた。その後、学びづくりから「つながりづくり」へ、情報・課題の共有から「行動の共有」を提唱し、「継承・発展期」へと続いていった。

○学力の本質は常に問われ続けてきたように思う。これは学校だけで考える問題ではなく、学校だけでは身に付けられない学びの力を家庭や地域と連携していく必要がある。そのためには、学力観を確認しその転換を図っていくことも大事だと思われる。さらには、子どもが育まれる状況を大人自身が楽しめることが大切である。

○国でも、子どもたちのこえを聴く動きがあるが、授業とか学びの取組というのは、先生と子どもたちの協働作業である。授業の中で子どもが意思を決定する場面、子ども自身がどんなことをしたいか、という「こえ」から始まる学びというものを大胆にとらえていくことも必要だろう。



参加者から（アンケートより抜粋）

- 発表は緊張しましたが、いろいろな意見が言えたり、聞いたのが良かったです。＜小学生＞
- 初対面の方と価値観や意見を交換できて新しい考え方が身につきました。また、先生方や大人の気持ちや視点にも触れられて参考になりました。＜中学生＞
- 教師を目指しているので、考えや視野を広げることができてよかった。普段先生には言えないようなことも、今日のような場所なら言うことができるので伝えられて良かった。今日の経験を活かして、なりたい先生像を作っていきたい。＜高校生＞
- 同じオンライン参加の方のチャットに確かに！と思うことが多く、先生方も色々と考えて授業してくれているんだな、と感謝の気持ちでいっぱいになりました。＜保護者＞

参加者による「みんなでディスカッション」

テーマ①「授業が楽しいと思うときは？」

答えを教えてもらう授業ではなく、自分たちで答えを探しにいくような、冒険みたいな、授業っぽくない授業があったら面白いな。

楽しいと思う場面はみんなちがうから、他の人が楽しいと思う場面のことを聞くのが面白いと思う！

みんなで話し合ったり一緒に何かをしたりする授業も楽しいし、ICTを使った授業も面白いと感じます。

コメンテーター

- 横浜国立大学教育学部 青山 浩之 教授
- 同 池田 敏和 教授
- 小田原市立富水小学校 鈴木 一彦 校長
- 平塚市立江陽中学校 山崎 幸子 校長
- 神奈川県PTA協議会 小林 真希 会長
- 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 小山内 大地 教諭
- 横浜市教育委員会 岡田 成人 指導主事

テーマ②「学ぶとはどんなこと？」

自分らしくあるために学んでいるのかな。

なりたい自分に向かうための道具だと思う。

人生の選択肢を増やすことだと思います。

見え方が変わってくることであったり、考えがより深くなることなのかな、と思っています。教員として、授業をとおして子どもだけでなく、自分自身も考えが深まっていると感じることがあります。

テーマ③「わたしたちのこえは届いている？」

中学校のときに、委員会で話し合った意見が、その後の学校生活に反映されていて、先生たちが受けとめてくれたんだと感じたことがありました。

ICTの活用について、先生も生徒も活用する力に差があると感じています。小学校から大学までの先生がいるのでお聞きしたいのですが、それぞれの学校ではICTの活用について、意識していることなどはあるのですか？

頑張って書いたレポートを先生に「すごい！」と大きな声で褒めてもらったときに、自分のこえ（がんばり）が届いたと感じました。

小さいこえでも、こえの通りにいなくても、気軽に届けられる環境にしたいし、してほしい！

